

泉太郎 突然の子供 TARO IZUMI A Child Suddenly

泉太郎 突然の子供

2017年10月7日(土)～
2018年3月25日(日)

展覧会名	泉太郎 突然の子供
会期	2017年10月7日(土) - 2018年3月25日(日)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで。ただし1月2日・3日は17:00まで) ※チケット販売は開場の30分前まで
休場日	毎週月曜日(ただし1月8日、2月12日は開場)、12月29日～1月1日、1月9日、2月13日
会場	金沢21世紀美術館 長期インスタレーションルーム ほか
料金	無料
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
助成	芸術文化振興基金助成事業
協力	DMM.make、株式会社 アイ・オー・データ機器

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館
事業担当: 野中祐美子 広報担当: 坂元圭、落合博晃
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

泉太郎 (1976-) は、映像、パフォーマンス、ドローイング、絵画、彫刻といった多様なメディアを交錯させ、精力的に作品を発表しているアーティストです。日常の事物や時には大勢の人々を巻き込みながら、一見、無意味とも思える行為や日常に潜む不条理な体験を描き出す作品で知られ、国内外で高い評価を得るアーティストです。時間と空間、実像と虚像、表と裏、自由と不自由といった当然のように切り分けている常識を捏ねくり回し、思いがけない方向から私たちに問いを投げかけます。

本展では新作4点の展示作品と1点の本の作品に取り組みます。

本展の中心的な作品であり、作家にとって初となる長編映画作品《B:「レンズは虎が通るのをはっきりと捉えていたのだ」》では、時間を伴う映画という手法で、時間が静止しているように見える絵画を捉えることで、私たちが映像を通して何を見ているのかを問いかけます。会期中に発表される《コンパクトストラクチャーたちの夜明け》は、様々な時間を複層的に重ねて制作した、構造としての映画とも言える作品です。さらに、金沢21世紀美術館の来場者について着目した《Y:「膝を上げよ、そのまま下げよ」P:「転ばぬよう、石を片付けておきました」》など、金沢での長期滞在中に複数の作品が完成されていきます。また、これら映像やインスタレーション作品と並行して、言葉を操る批評家と泉とのコラボレーションによって言葉を代替し、それを超えるような伝達方法について探る本の作品《暗いネズミ色の本》にも取り組みます。

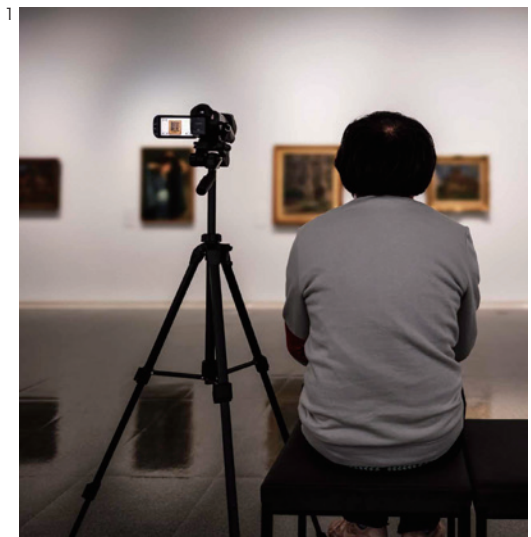
長らく泉が探求し続け、決して解決することのない永遠に広がる問いかけである映像やイメージと身体や意識との捻れた関わりについて、これまでの取り組みを踏まえつつも、全く新しい方法で提示する極めて挑戦的な展覧会となることでしょう。

作家プロフィール

泉太郎

Taro IZUMI

1976年奈良県生まれ、東京都在住。2002年多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。動画を体験する日々がごく自然に浸透しているなかで、ビデオカメラと身体、そしてそれを取り巻く空間を攪乱するようなインスタレーション作品に取り組む。2015年、当館で開催された「われらの時代：ポスト工業化社会の美術」においては、虚像と実像、時間と空間とが絢交ぜ状態となる圧倒的なインスタレーションを発表した。2017年2月から5月に開催された国外では初となる大規模な個展「Pan」(パレ・ド・トーキョー、パリ)をはじめ、泉の特異な表現活動は国内外で高い評価を得ている。



作家ステートメント

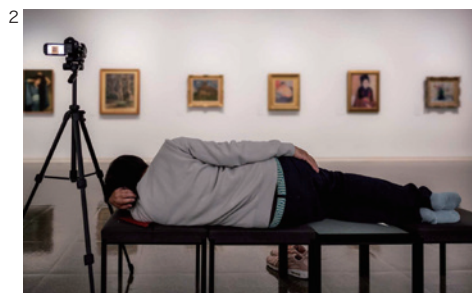
何かしらの考えを観客に向けて発信するために作るのではなく、興味があることに対する研究を進めるうちにはたから見たら表現になっているということのほうが興味があります。対象との距離を複数用意した上で並行して作るほうが固まりすぎずに考えることができるので、作品はいくつか出品されていることが多いと思います。石を見ているうちに付着する苔や裏にいるミミズに興味を持つこともあるでしょうし、それを含めて石だと思えるかもしれませんし。

今回は、映像や画像が人間の視覚体験に与えている変容による影響と、それによって起こる身体感覚とのズレとの隙間をレンズで覗き見るようなことに興味を持って作りました。また、ビデオカメラは撮影時に含まれている全ての事象を撮影することができないこと、あるいは映っている人間からするとそれが認識できないことも含めて、映像作品に興味があります。

例えば誰かの目をじっと見つめていても、その人が何を見ているのかは想像するより他ありません。映像装置の普及が何となくそれを擬似的にでも再現しやすくしている、というのは実は誰も確信できておらず、ビデオがいったい誰の視覚体験でそこにいったい何を見ているのかを想像することは、、、それが不気味の谷の奥底であることに気付くと眠れなくなるよ、と本能的に回避しているだけだとしたら、、、ここにある映像に気付くための映像が回避を回避して不眠症を回避できないのを回避できるように、ポップコーンを用意しました。(泉太郎)

作品について

《B:「レンズは虎が通るのをはっきりと捉えていたのだ」》



上映会場：レクチャーホール

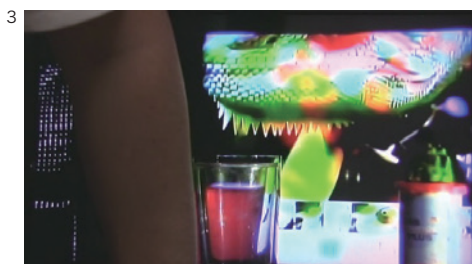
又はシアター 21

展示場所：長期インスタレーションルーム

10/7 (土)～3/25 (日)

各地の美術館の展示室にて、開館から閉館までを過ごす絵画の一日を撮影した映画作品。映画の中での絵画は退屈そうに見えるかもしれないし、私達は映画館のような状況でその退屈な時間を一緒に過ごすことになるのかもしれませんが。その中で、絵画を見ているのか、あるいは映画を見ているのか、時間そのものを見ているのか。時間の許す限り、いや、できるだけ時間に許してもらってゆっくり過ごしてみてください。ポップコーンでもつまみながら。

《コンパクトストラクチャーたちの夜明け》



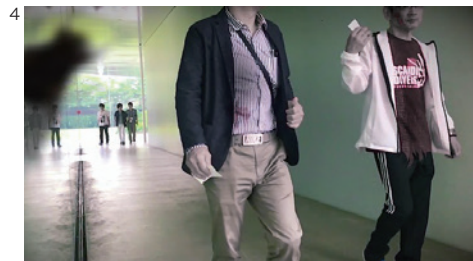
場所：レクチャーホール外周

11/23 (木・祝)～3/25 (日)

映像内には異なる時間が層となり、別々の次元にある臓器を集めて作った身体のように折りたたまれて重なっています。

例えば映画の中の様々な時間は同時に存在することはありません。私達はそれぞれの時間を象徴する場面に記憶することでストーリーや時間の流れを体験することができます。それに対してこの作品は、異なる時間が一つの画面上で重なり、映像の内臓が丸見えになっているかのような状態です。

《Y:「膝を上げよ、そのまま下げよ」 P:「転ばぬよう、石を片付けておきました」》

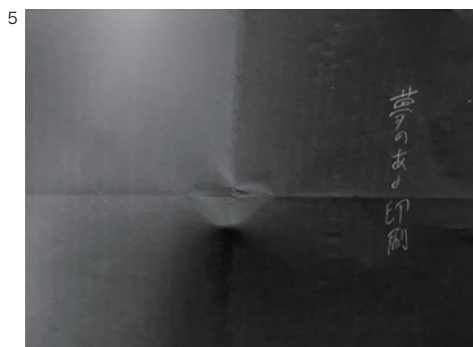


場所：本多通り口 エントランス
 (レストラン横 サイネージ)
 11/23 (木・祝)~3/25 (日)

美術館の来場者を撮影して制作している映像作品です。

多くの来場者がいる美術館、もう少し控えめに活動している美術館、いろいろな美術館がありますが、金沢21世紀美術館は前者だと言えるでしょう。それはこの美術館の建築としての存在感に拠るところも大きいのかもしれません。美術館の中を歩いていると張り巡らされた廊下を使い、人が自由に周遊できるような構造になっていることに気が付きます。今回の展示室が美術館の周縁に位置する無料ゾーンにあることを前提に、主に中心部の有料ゾーン以外の場所を周遊している人々を観察しました。それらの場所では、人々は中心部とは違い、目的意識や集中力からは解放された状態にある人が多いでしょう。建築家に与えられた自由のもと、人々はどこに向かって歩いていくのでしょうか。

《暗いネズミ色の本》



内容：非文字本
 発行日：後日発表

言語を使い仕事をしている方の協力のもと、それに代わる方法で理論的な内容のテキストを抽象的に伝達できる方法を探ります。最終的には本として出版することを目指します。

テキスト：泉太郎

関連プログラム

連続ビデオトーク

出品作品《B:「レンズは虎が通るのをはっきりと捉えていたのだ」》を中心に、合計3回のトークを開催いたします。

2017年11月23日(木・祝) 18:00~19:30 (17:45開場)

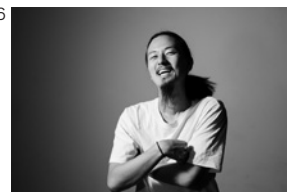
出演：泉太郎(出品作家)×中島悠(映像作家)×野中祐美子(本展担当キュレーター)

会場：シアター21

定員：110名(申し込み不要) 料金：無料

中島悠

富山県出身 映像作家、ドキュメンタリアン、ウイスキー愛好家、愛犬家。⁶
2010年、渡米。2015年、渡独。アメリカにて長編ドキュメンタリー映画「ハーブ&ドロシー 2ふたりからの贈りもの」の制作に参加。2015年に発表した短編ドキュメンタリー映画「KATSUO-BUSHI」がAFI(AMERICAN FILM INSTITUTE)ドキュメンタリー映画祭、HOT SPRINGS映画祭、IDFA映画祭などに正式出品され、世界8カ国で上映される。2016年より国際パラリンピック連盟とWOWOWの共同で企画されたパラリンピックアスリートのドキュメンタリープロジェクト“WHO I AM”シリーズの監督を務める。



2018年1月13日(土) 18:00~19:30 (17:45開場)

出演：泉太郎×野中祐美子

会場：レクチャーホール

定員：90名(申し込み不要) 料金：無料

2018年2月18日(日) 18:00~19:30 (17:45開場)

出演：泉太郎

会場：レクチャーホール

定員：90名(申し込み不要) 料金：無料

クロージングイベント

《暗いネズミ色の本》について、泉氏がゲストとともにその全貌を明らかにします。

2018年3月25日(日) 18:00~19:30 (17:45開場)

会場：プロジェクト工房

出演：後日発表 料金：無料

広報用画像

画像1~6を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

画像お申し込みフォーム ▶ https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。